



伊計 裕子 議員

◆社会保障
◆子どもの貧困対策

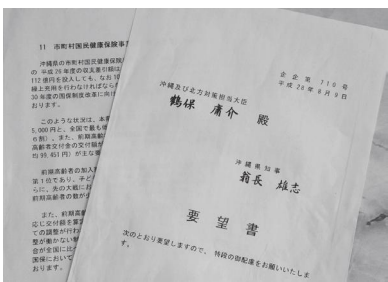
〔1〕生活保護受給対象者の車保持を国や県に要請されたことなどがその後について伺う。(2)翁長知事が鶴保大臣への要望書の中で、国保事業に対する支援についても要望しているが、町としても町村会首長などでの後押しを検討しているかどうかを伺う。

〔福祉部長〕(1)生活保護の車保持については南部福祉事務所に問い合わせたところ、特例の場合を除き、まだこのことでしたので、今後引き続き要請をしていきたいと考えております。(町長) (2) 8月9日鶴保

沖繩担当大臣の来沖による県内各地域の首長や議会議員との懇談会においても、沖繩戦の影響による県内市町村の財政が悪化している問題への対応を求めている。さらに翌日、首相官邸での菅官房長官面談や厚労省への要請時には、翁長知事とともに町村会の副会長が同行し、沖繩戦の影響によって生じている県内自治体の国保財政の赤字補てんなどを求めています。前期高齢者問題に関しては、今後とも粘り強い要請活動が必要だと考えております。

〔1〕就学援助制度。入学・始業前に支給できるように改定することは可能かどうか伺う。(2)子ども医療費の現物支給による窓口払いはいかがか。(3)支援員の待遇について伺う。

〔教育部長〕(1)就学援助制度の支給認定をするには、前年度の所得課税状況を確認する必要があります。その確認が6月以降となるため、現段階で入学・始業時に支給するのは厳しいものと考えております。(福祉部長) (2)子どもの医療費の現物給付について



県知事から沖繩担当相への要望書の写し

は、国民健康保険の国庫支出金が減額されることになり、本町においては国保財政に苦慮している状況であり、その中で、制度の導入は厳しいと考えております。しかし現在国に対して、子どもの医療費助成と国保財政の改善は分けて議論すべきとの声が高まり、厚労省は現物給付に対する国庫支出金減額のペナルティーを緩める方向で検討がなされていますので、財源確保の課題等が解決できれば、現物給付の検討が可能かと考えております。(3)西原町の貧困調査及び支援員として2名の嘱託員を採用しておりますが、西原町の嘱託員設置規定による処遇で、報酬につきましては月額18万円です。



屋比久 満 議員

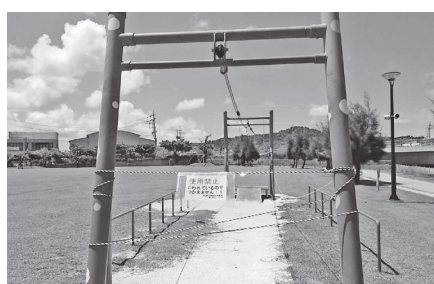
◆地域懇談会の要望
◆イルカ公園の補修
◆南西石油の問題

〔1〕地域懇談会における各自治会からの要望についていつ頃から対応するのか伺う。

〔総務部長〕今回の地域懇談会では32行政区から寄せられた多くの意見、要望等については、地域ごとにさまざまなケースがあり、すぐに対応できる案件もあれば、予算が伴う案件、また時間を要する案件、検討を要する案件や優先度・緊急度等に分けられ、一概にそういうこともあり、いつからすべて対応するかということはいくつかの言葉で申し上げることが難しいです。風対策として支柱の添え木を設置し、幹が揺れないように

えていきたいと考えております。(建設部長) 美味自治会の側溝の蓋については、老朽化による立て付けが原因でありますので、蓋の取り換え工事を10月中旬に予定しております。

固定しております。添え木が腐食し、樹木周辺に空洞の穴が開いていた状況にあります。空洞穴を調査し9月14日に砂を入れて対策を行っております。(建設部長) 現在、従業員の退職パッケージについては、労働組合と交渉を週1回程度継続しており、新会社への引き継ぎについては順調に進んでおり、10月中旬に売買契約が完了し、マスコミに報道を通じては発表される見通しであるとの情報を得ております。



ワイヤー破損のため使用禁止となった遊具

〔建設部長〕イルカ公園にある遊具の耐用年数によるワイヤーの破損に気づいたのが7月31日であり、8月1日には業者に見積もりを依頼し納品が9月になり、9月17日に修理を実施しております。転落防止柵についても9月14日にトラロープで対策を講じております。当初西原タッチユウは遠見台兼滑り台とする計画もありましたが、斜面勾配がきつく危険性があり、頂上の入り口を現在の擬木柵にした経緯がございます。

〔建設部長〕現在、従業員の退職パッケージについては、労働組合と交渉を週1回程度継続しており、新会社への引き継ぎについては順調に進んでおり、10月中旬に売買契約が完了し、マスコミに報道を通じては発表される見通しであるとの情報を得ております。

◆空手競技用マット



長浜 ひろみ 議員

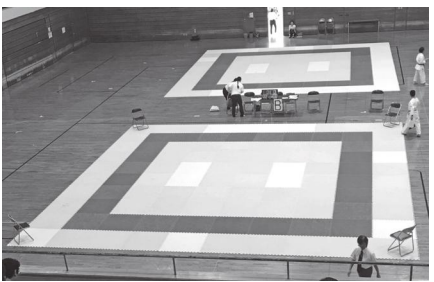
〔2020年、東京オリンピックでは正式に競技種目に加えられる予定であり、空手がオリンピックの競技種目になったら、今後さらに世界から注目されること期待される。現在、世界での空手競技人口は6千万人とも言われている。空手はこの国へ行って

も「カラテ」で通用するほど人気のスポーツになっており、中学校や高校、一般の空手競技には、空手競技用マットが安全面を考慮して、ぜひ必要となってきている。そのため、沖縄県での大会や開催場所は、その競技用マットのある地域である那

覇市や豊見城市、嘉手納町などに限定されている。昨年は、西原中学校で中頭郡空手道大会にて、男子団体組手優勝、女子団体3位と優秀な成績を収めている。この生徒らは今後、高校へ進学した際には、2020年の東京オリンピックが大事な目標になってくるかもしれない。今回のリオオリンピックでも久高島出身の重量挙げの選手が出て、大いに県内を沸かせた。また、パラリンピックでも県内のお二人の選手が参加し感動を与えている。豊見城市民体育館では、空手競技用マット4面分を購入しているそうだ。今後の青少年の育成や沖繩の文化継承に役立つと思う。

近年、震災時の各自治体での対応に関心もたれているが、この空手競技用マットが体育館で使用され、被災した住民の保温のため、広範囲に敷き詰めることにより避難をした住民がかなり生活しやすくなっているという話もあるそうだ。

〔教育部長〕空手競技用マット購入については、一括交



空手用競技マット

◆シルバー人材センターの事務所移転



平良 正行 議員

〔平成28年7月26日、町シルバー人材センターの理事長以下が町長を訪れ、平成28年度公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会定期総会決議に係る要請行動があったと聞いている。同センター事務所は、平成19年7月に台風で大きな被害を受け、応急処置の後、平成22年7月に町からの補助金により、補強・復旧工事を行い、現在に至っている。耐用年数も過ぎ、大型台風が来たらどうなるのか心配が絶えないとのことだ。その要請行動のときに、町シルバー人材センターから独自

の要請として、一時的に町の既存施設に移転できるようお願いがあったと思うが、どうなっているか。

〔建設部長〕ご指摘のとおり、町シルバー人材センター事務所は築23年余が経過し、その劣化状況は大きな課題であると認識しています。町施設への一時的な移転については、現在の町施設の利用状況では、シルバー人材センター事務所を移転できる余裕のある施設はなく、大変厳しい状況です。台風などの被害・不安が深刻であることから、同センター事務所移転については、早急に対応しなければならぬ問題だと認識しています。

〔産業課長〕再度、教育委員会とも詰めてみたいと思います。〔建設部長〕現在、従業員の退職パッケージについては、労働組合と交渉を週1回程度継続しており、新会社への引き継ぎについては順調に進んでおり、10月中旬に売買契約が完了し、マスコミに報道を通じては発表される見通しであるとの情報を得ております。

〔産業課長〕町シルバー人材センター事務所の老朽化については以前からご指摘がありました。それについては、私もご要請を受けまして、中央公民館2階の元図書室を使えないか、調整



老朽化した町シルバー人材センター事務所